

海洋安全保障情報月報

2012年10月号



目次

1. 情報要約

- 1.1 海洋治安
- 1.2 軍事動向
- 1.3 南シナ海関連事象
- 1.4 外交・国際関係
- 1.5 海運・造船・港湾

2. 情報分析

- 2.1 2012年第3四半期までの海賊行為と船舶に対する武装強盗事案～IMB報告書に見る特徴～
- 2.2 2012年第3四半期までのアジアにおける海賊行為と武装強盗事案～ReCAAP報告書から～

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

リンク先 URL はいずれも、2012 年 10 月末現在、アクセス可能なものである。

編集者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、上野英詞、河村雅美、酒井英次、関根大助、高田祐子、友森武久、長尾 賢、
向和歌奈、和田大樹

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。

1. 情報要約

1.1 海洋治安

10月10日「EU艦隊、海賊容疑者を拘束」(EU NAVFOR Public Affairs Office, October 11, 2012)

EU艦隊旗艦、イタリア海軍ドック型揚陸艦、ITS *San Giusto* は10日、ソコトラ島東方180カイリの海域で、梯子と約20本の燃料ドラム缶を積んだ小型ボート (skiff) を視認し、ヘリを発進させ、現場を確認後、同艦の臨検チームがボートに乗り込み、7人の海賊容疑者を拘束した。ボートは、臨検を終えた後、破壊された。EU艦隊のポッツ (RADM Potts) 司令官は、「この3か月以上の期間で、これが初めての海賊容疑者の拘束である。10月末でモンスーンの季節が終われば、海賊は再び海に出るだろう。従って、常時、警戒していかなければならない」と語った。以下は、その時の様子である。

記事参照 : EU Naval Force Quick To Capture Suspect Pirate Boat

<http://www.eunavfor.eu/2012/10/eu-naval-force-quick-to-capture-suspect-pirate-boat/>



Left: ITS *San Giusto* captures suspected pirates

Right: Snapshot of the skiff being destroyed by ITS *San Giusto*

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, October 11, 2012

10月11日「ソマリアの海賊、ギリシャ船を解放」(AP, October 12, 2012)

ソマリアの海賊は11日、リベリア籍船でギリシャの船社運航の、ばら積船、MV *Free Goddess* (22,051DWT) を解放した。ソマリアの海賊は12日、230万米ドルの身代金を受け取ったと語った。しかし、船主側は、身代金の支払いについてはコメントしていない。該船は2月7日、エジプトのアダビアからシンガポールに鋼線を積んで航行中、アラビア海でハイジャックされた。該船の乗組員は、21人のフィリピン人である。

記事参照 : Somali pirates release Greek-owned ship for ransom

<http://www.google.com/hostednews/ap/article/ALeqM5jlbSpyesbG40-DeBZuyhX3-kv eDg?docId=1a6c1c56e2a740adbfc532233a5536eb>



MV Free Goddess

Source: Somalia Report, February 11, 2012

10月19日「ソマリアの海賊、パナマ籍船解放」(gCapatin, October 21, 2012)

ソマリアの海賊は19日、パナマ籍船でアラブ首長国連邦の船社の貨物船、MV *Orna* (27,915DWT) を解放した。但し、乗組員は19人中、13人が解放されたのみである。該船は2010年12月20日にセイシエル北東約400カイリのインド洋でハイジャックされた。身代金が支払われたといわれるが、金額は不明である。

記事参照：M/V Orna Released By Pirates, 6 Crew Still Held

<http://gcaptain.com/orna-released-pirates-crew-held/>



MV Orna

Source: gCapatin, October 21, 2012

10月20日「EU艦隊、海賊容疑者拘束」(EU NAVFOR Public Affairs Office, October 23, 2012)

EU艦隊所属のドイツ海軍フリゲート、FGS *Sachsen* は20日、ソマリア沿岸北東沖250カイリの海域で、イランのダウ船から20人のイラン人乗組員を救出するとともに、7人の海賊容疑者を拘束した。同艦は、19日にイラン船から救難信号を受信し、現場海域に向かった。同艦は、イラン船を発見した後、船長と交信し、6日前にハイジャックされたことが判明した。同艦の臨検チームがイラン船に乗り込み、7人の海賊容疑者を拘束するとともに、ハイジャックの証拠となる数丁のAK-47強襲ライフル、ロケット推進擲弾筒などを押収した。以下は、その時の様子である。

記事参照：EU Naval Force frigate FGS Sachsen saved Iranian dhow from suspected pirates (2nd update)

<http://www.eunavfor.eu/2012/10/eu-naval-force-frigate-fgs-sachsen-saved-iranian-dhow-from-suspected-pirates/>



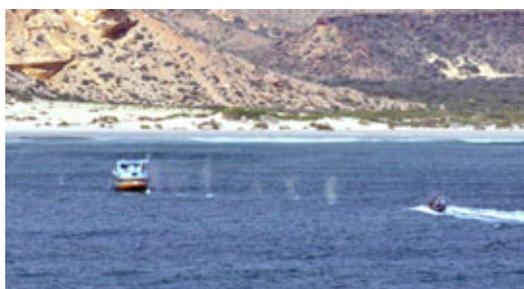
Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, October 23, 2012

10月24日「NATO 海賊対処部隊、海賊ダウ船を銃撃」(NATO Maritime Command, News Release, Oct 24, 2012)

NATO 海賊対処作戦、‘OCEAN SHIELD’の旗艦、オランダ海軍ドック型揚陸艦、HNLMS *Rotterdam* は24日、ソマリア沿岸沖での通常哨戒任務中、不審なダウ船から銃撃を受けた。同艦の臨検チームが沿岸近くにいたダウ船に近づいたところ、ダウ船と陸上から銃撃を受けた。同艦は、交戦規則に則って反撃したところ、ダウ船が炎上し、乗組員は海中に飛び込んだ。銃撃で1人が死亡したが、25人が同艦に救出された。救出行動中も陸上から銃撃され、同艦のRHIBの1隻が損傷を受けた。海賊は、ダウ船を母船に利用することが多くなっている。以下はその時の様子である。

記事参照：PIRATES FIRE ON NATO SHIP

<http://www.manw.nato.int/pdf/Press%20Releases%202012/Ocean%20Shield/OOS%202012%2035.pdf>



Left: Small boat from the HNLMS Rotterdam returning fire on a suspect Dhow after coming under fire during an approach off coast Somalia on the 24th of October 2012.

Right: Suspect Dhow on fire after engagement with a small boat from the HNLMS Rotterdam

Source: NATO Allied Command Operations, October 24, 2012

10月30日「米国務省高官、商船への民間武装警備員雇用促進を期待」(Ports and Ships, October 30, 2012)

米国務省で海賊対処を担当する、ケリー国務次官補は、商船への民間武装警備員の雇用は海賊対処の転換点になるとして、「民間武装警備員の雇用に関しては、余り多くは語られないが、我々は、雇用が商船に対する襲撃事例の減少をもたらした主たる要因になっていることを学んできた」と語った。ケリー次官補によれば、コンテナ船とタンカーの80%が民間武装警備員を雇用しているが、ほとんど海賊に襲撃されていない。ケリー次官補は、民間武装警備員を雇用する船舶が100%になることを希望すると述べた。

記事参照：US official suggests all ships should be armed

http://ports.co.za/news/news_2012_10_30_01.php#three

1.2 軍事動向

10月2日「ロシアで改装中のインド空母、海上公試では高性能発揮」(The Hindu, October 2, 2012)

ロシアで改装中のインド空母、INS *Vikramaditya* のインド回航が海上公試中の推進機関の故障で遅れるとの報道があったが (OPRF 海洋安全保障情報月報 2012年9月号 1.2 軍事動向参照)、2日付のインド紙、*The Hindu* によれば、海上公試は実際には成功していたようである。インドの調査チームは、INS *Vikramaditya* の海上公試を追跡調査し、海上公試が全体として順調で、予定されたテスト計画の大部分が達成された、との結論に達した。調査結果は、INS *Vikramaditya* は、海上公試を通じて、以前のミサイル・航空機混載型巡洋艦、*Admiral Gorshkov* から高性能の空母への改装が成功したことを実証した、と評価した。INS *Vikramaditya* は、優れた運動性能を発揮するとともに、艦載機の発着艦も完璧にこなした。また、搭載した精巧な電子機器、航法装置及びその他のシステムも、高い性能と信頼性を示した。

海上公試中のトラブルを起こしたボイラーも、取り替える必要がないという。原因は、ボイラーの室囲壁と耐火セラミックとの間の防熱に特定された。インドの専門家の要求で、伝統的なアスベストを使用しなかった。ボイラーがフルパワーを出した時、代わりに使用した材質が少し変形したという。インドは、アスベスト板を使用することに合意した。

消息筋が *The Hindu* に語ったところによれば、インド海軍幹部は特に、海上公試中の艦載機の発着艦に印象づけられたようである。完全装備で増槽を付けた MiG-29K と MiG-29KUB による、41回の完璧な発着艦が行われた。ロシア製とインド製の光学電子着艦システムによって、ロシア人パイロットは、3本ある拘束ワイヤーの2本目にフックをかけて着艦できた回数が70%に達したが、これは完璧な成績とされる。排水量4万4,000トンの INS *Vikramaditya* はまた、速度18ノットで自艦の全長(約283メートル)の半分の半径で360度回頭できる、優れた運動性能を発揮した。

ロシアの Sevmash 造船所は、2013年初めまでに全ての補修を完了させるとしているが、再度の海上公試は白海の海水が溶ける5月後半まで再開できず、消息筋によれば、INS *Vikramaditya* がインド海軍に引き渡されるのは2013年夏になるという。

記事参照：INS *Vikramaditya* trials termed successful

<http://www.thehindu.com/news/international/ins-vikramaditya-trials-termed-successful/article3958345.ece>



MiG-29K taking off from INS Vikramaditya

Source: The Hindu, October 2, 2012

10月7日「東南アジア諸国の海軍力増強、西側防衛産業の魅力的市場に」(Reuters, October 7, 2012)

7日付けのロイターは、東南アジア諸国が海軍力の増強に注力し、それが西側防衛産業の魅力的市場になっているとして、要旨以下のように報じている。

- (1) 東南アジア諸国は、中国に対する懸念と経済発展が相まって、シーレーン、港湾及び海洋境界を護るために、軍事費を増額しつつある。南シナ海における領有権紛争と豊かな石油、天然ガス資源の存在が予測されていることから、ベトナム、マレーシア、フィリピン及びブルネイは、増大する中国の海軍力を前に軍事力の増強に努めている。領有権紛争から距離を置くインドネシア、タイ及びシンガポールでさえ、海洋安全保障が軍事力整備の重点となっている。SIPRIのデータでは、東南アジア諸国の軍事費は、経済発展もあって、2012年には前年比実質42%の増額となっている。
- (2) これら諸国の整備の重点は、シーレーンに対するアクセス拒否に特に効果的な潜水艦と対艦ミサイルに加えて、戦闘艦、哨戒艦艇、レーダーシステム及び作戦機である。例えば、マレーシアは2隻の *Scorpene* 級潜水艦を保有しており、ベトナムは6隻の *Kilo* 級潜水艦をロシアから購入しつつある。タイも潜水艦の購入を計画している。シンガポールは、米国から F-15SG 戦闘機を導入するとともに、現有の4隻の *Challenger* 級潜水艦に加えてスウェーデンから2隻の *Archer* 級潜水艦を購入した。重要なシーレーンが通り、5万4,700キロに及ぶ海岸線を持つ群島国家、インドネシアは、現有2隻の潜水艦に加え、韓国から新型潜水艦3隻を購入する。また、C-750、C-802 対艦ミサイルを中国と共同生産している。
- (3) 西側主要国の国防費が抑制される状況下では、西側の防衛産業にとって、アジアは魅力的市場である。例えば、米国の Lockheed Martin と Boeing の防衛部門は、海外収益の約40%をアジア太平洋地域に期待している。この地域の海洋安全保障環境は、防衛産業の注目を集めてい

る。ベトナムは、2007年から2011年の間、フリゲート、作戦機及び Bastion 沿岸ミサイルシステムを含む、主要装備の 97%をロシアから導入したが、現在、オランダや米国などと装備調達の協議をしており、供給先の多様化を目指している。フィリピンは、装備の 90%を米国に依存しており、南シナ海における中国からの高まる脅威に対処するために、今後 5 年間で 18 億ドルを投入し、軍事力の強化を計画している。フィリピンは、空中監視能力と対潜能力の強化を優先課題としている。タイは、英国の BAE Systems 設計の哨戒艇 1 隻を建造したが、更にフリゲート 1 隻を近代化し、今後 5 年間で 2 隻の新型フリゲートの内、1 隻を購入する計画である。シンガポールは、米国、フランス及びドイツから大部分の装備を導入しているが、ST Engineering を主体とする自前の防衛産業も持っている。同社は、シンガポール軍に加えて、海外にも顧客を持っている。

記事参照 : Southeast Asia splashes out on defense, mostly maritime

http://www.reuters.com/article/2012/10/07/us-defence-southeastasia-idUSBRE8960JY20121007?utm_source

10月8日「フィリピン、スービック湾の重要性を再認識」(Defense News, October 8,2012)

米国がアジア太平洋におけるプレゼンスを強化する中で、フィリピンは、南シナ海に面した旧米軍港、スービック湾基地が米海軍艦艇のハブ基地として主要な役割を果たしことができると期待している。かつて米軍最大の在外基地であった、この基地は、マニラの北東約 80 キロに位置し、1992 年に閉鎖されて以来、今日では自由港として、また観光港になっている。フィリピン政府の地位協定委員会のアダン委員長(退役将官)は、米国が 2020 年までに海軍力の過半を太平洋地域に集中しつつあることから、水上艦艇と潜水艦の係留地としてこの天然の深水湾を必要とするようになろう、と指摘している。アダン委員長は、「海軍艦艇や空母を収容できる港湾はあまりなく、その少ない 1 つがスービック湾である。スービック湾は、太平洋地域で米軍のプレゼンス維持に貢献できる重要な施設の 1 つであるが故に、重要な役割を果たすことになろう」と述べた。

フィリピンは、1999 年に米国との間で地位協定を批准し、米軍との大規模な演習が再開されるようになった。以来、米軍はフィリピン軍との間で、各種の年次演習を実施している。アダン委員長は、フィリピンにおける米軍のプレゼンスが周辺海域の防衛に資することになるとして、「フィリピンのそして域内諸国の関心は航行の自由にあり、フィリピンは(それを護る上で)戦略的に重要な地理的位置にある」と強調した。

記事参照 : Philippines Sees Naval Port As Vital To U.S. Presence in Philippines

<http://www.defensenews.com/article/20121008/DEFREG03/310080006/Philippines-Sees-Naval-Port-Vital-U-S-Presence-Pacific?odyssey=mod|newswell|text>



The U.S. Navy submarine Olympia docks at the former U.S. naval base Subic Bay on Oct. 8 after the formal opening of the annual 10-day Philippine-U.S. Amphibious Landing Exercise.

Source: Defense News, October 8, 2012

10月12日「米空母2個打撃群、アンダマン海で合同訓練実施」(Military News, October 12, 2012)

米空母、USS *George Washington* (CVN73) 打撃群と USS *John C. Stennis* (CVN74) 打撃群は、9月からアジア太平洋地域で前方展開と各国港湾へ友好訪問を実施してきたが、12日にアンダマン海で、9月末のグアム周辺海域での訓練に続いて、合同の航空作戦訓練を実施した。アンダマン海に米海軍の2個空母打撃群が展開するのは初めてという。USS *George Washington* のフェントン艦長は、「合同訓練は、相互運用性の向上に加え、人道支援から戦闘任務に至るあらゆる軍事行動に対する即応態勢に不可欠だ」と強調した。

記事参照：Carrier Strike Groups Operate in Andaman Sea

<http://www.military.com/daily-news/2012/10/12/carrier-strike-groups-operate-in-andaman-sea.html?comp=7000023468025&rank=1>

10月16日「インド、インドネシア、防衛協力強化の合意」(DiploNews.com, October 16, 2012)

インドのアントニー国防相とインドネシアのユスジアントロ国防相は16日、ジャカルタのインドネシア国防省で会談し、両国間の防衛協力を強化することに合意した。両国国防相同士の会談は今回が初めてで、地域及びグローバルな安全保障問題、2国間軍事演習、装備・弾薬の共同生産、及び軍高官の相互訪問など、広範な問題について意見交換を行った。両国間の防衛対話については、2011年1月にインドネシアのユドヨノ大統領が訪印した際、合意されていた。両国海軍は現在、協調海洋哨戒活動を定期的実施している。アントニー国防相は会談で、両国海軍間で公式の海洋監視情報共有体制の設置を提案した。

アントニー国防相は会談後の会見で、南シナ海問題について、全ての当事国は自制心を持って国際法規の諸原則に準拠した対話による問題解決を図るべきであり、インドは国際法規の諸原則に準拠した航行の自由と海洋資源へのアクセスを支持する、と強調した。

記事参照：India and Indonesia agree to significantly step up Defense Cooperation

http://www.diplonews.com/feeds/free/16_October_2012_216.php

10月18日「韓国海軍、次世代潜水艦・駆逐艦を導入」(The Korean Times, October 22, 2012)

韓国海軍戦力計画局長が18日に明らかにしたところによれば、海軍は、抑止力を向上させるために、新たな潜水艦や駆逐艦の建造を進めるとともに、既存の潜水艦や駆逐艦等の増強も計画している。それによれば、海軍は、シーレーンの安全確保と対潜戦能力を強化するために、3,000トン級の次世代潜水艦を新たに9隻建造するとともに、1,800トン級潜水艦を現有の3隻から2018年までに9隻に増強する。海軍はまた、7,600トンのイージスシステム搭載艦を2020年までに現有3隻から6隻に倍増する。これによって、通常、イージス艦2隻、駆逐艦4隻、指揮艦1隻及び潜水艦5隻で構成される、戦闘艦隊が現在の1個から3個に増強される。その他の戦力増強計画には、5,000トン級次世代駆逐艦6~9隻、2,300トン級フリゲート20隻、3,000トン級機雷敷設艦1隻、760トン級掃海艇3隻の建造が含まれている。これらの戦力計画を実現するためには、2030年までに約8.4兆ウォンが必要となる。国会国防委員会のメンバーは、海軍力増強のための多額の経費の必要性に同意しているという。

記事参照 : S. Korea to add submarines, Aegis destroyers.

http://www.koreatimes.co.kr/www/news/biz/2012/10/113_122831.html

10月19日「米印、潜水艦演習開始」(Military.com, October 19, 2012)

米印両国海軍は19日から11月13日まで、ムンバイ沿岸沖で合同演習、INDIAEX 2012を実施する。この演習は、米国の潜水艦救難システムとインド海軍潜水艦との協調行動を目的としている。演習には、インド海軍の4隻の潜水艦が参加し、米海軍のUndersea Rescue Command (URC) と共に、URCのSubmarine Rescue Diving and Recompression System (SRDRS) を使用して潜水艦救難シナリオを演練する。10月30日から11月6日までは、洋上での訓練が実施される。SRDRSは、インドの潜水艦と接続し、潜水艦乗組員を救難艦に移送する訓練が実施される。これは、初めての訓練となる。URCは、水深の深い外洋で潜水艦救難作戦を行う米海軍で唯一の部隊で、約120人の現役、予備役及び民間雇員から構成される混成組織である。

記事参照 : US, Indian Navies to Conduct Submarine Exercise

<http://www.military.com/daily-news/2012/10/19/us-indian-navies-to-conduct-submarine-exercise.html?comp=7000023468025&rank=2>

10月19日「ロシア海軍ミサイル着弾監視船、任務復帰」(RIA Novosti, October 20, 2012)

ロシア海軍唯一のミサイル着弾監視船、*Marshal Krylov*は19日、ウラジオストクでの1年間にわたる改修を終え、任務遂行のため出港した。同艦の任務は、アンテナや電子機器を搭載し、弾道ミサイルの発射から着弾までを観測することである。ロシアは19日に、ICBM、Topolの発射実験を実施し、太平洋の設定目標海域に高い精度で着弾したと発表した。旧ソ連海軍は8隻のミサイル着弾監視船を保有していたが、ソ連崩壊後、7隻をスクラップとして売却した。*Marshal Krylov*は、1987年建造開始で、89年に就役した。

記事参照 : Russia's Only Tracking Ship Sails After Overhaul

http://en.rian.ru/military_news/20121020/176767729.html



Marshal Krylov

Source: RIA Novosti, October 20, 2012

10月22日「フランス DCNS、浅海用小型潜水艦デザイン公表」(Navy Recognition, October 22, 2012)

フランスの海軍艦艇を建造する造船局、DCNS は、パリで開催中の Euronaval 2012 コンベンションで、浅海作戦用のユニークな小型潜水艦のデザインを公表した。この潜水艦、SMX-26 "Caiman" は、長さ 39.5 メートルで、水深 15 メートル程度の浅海でも行動でき、収容可能な車輪で海底を移動できる。最大行動日数は 30 日間である。更に、SMX-26 "Caiman" は、最大 6 人の特殊部隊ダイバーを乗せ、また対水上艦攻撃用の大型魚雷も搭載可能である。更に、周辺環境について三次元地図を作成できる装備も搭載できる。

記事参照 : "DCNS unveils a new submarine concept at Euronaval 2012: The SMX-26"

http://www.navyrecognition.com/index.php?option=com_content&task=view&id=699



Left: SMX-26 model on display on DCNS' stand at Euronaval 2012

Right: SMX-26 on the seabed

Source: Navy Recognition, October 22, 2012

1.3 南シナ海関連事象

10月5日「中国、海洋協力基金 30 億元提供申し出—第 1 回拡大 ASEAN 海洋フォーラム」(PhilStar.com, October 6, 2012)

フィリピン主催の第 3 回 ASEAN 海洋フォーラム (AMF) が 3 日～4 日の両日、翌 5 日には第 1 回拡大 ASEAN 海洋フォーラム (EAMF) がマニラでそれぞれ開催された。EAMF には、ASEAN10 カ国に加えて、オーストラリア、中国、インド、日本、ニュージーランド、韓国、ロシア及び米国が出席した。パム・ベトナム外務次官が明らかにしたところによれば、EAMF で、中国は海洋協力基金として 30 億元 (4 億 7,400 米ドル) の提供を申し出たという。ASEAN と中国は、既に航行の安全、生物多様性の保護及び捜索救難を含む海洋問題で協力しており、基金で可能な活動を話し合っている。AMF では、参加国は、領有権紛争は国際法、国連海洋法条約、及び行動規範 (DOC) を含む当事国によって採択されたその他の文書に準拠して解決されるべきことに合意した。パム次官は、「我々は、領有権紛争を封じ込め、協力的活動を強化できる平和で安全な海洋環境を如何にして確保するかについて、話し合った」と語った。

記事参照 : China offers Asean \$474-M fund

<http://www.philstar.com/Article.aspx?articleId=856471&publicationSubCategoryId=63>

【関連記事】

「米、拡大 ASEAN 海洋フォーラムの制度化望む」(PhilStar.com, October 7, 2012)

マニラで 5 日に開催された第 1 回拡大 ASEAN 海洋フォーラム (EAMF) に出席した、ユン米國務次官補は、「この会議が継続されるかどうかは未だ決まっていないが、米国はこの会議を強く支持する。我々は、この会議が制度化されることを望んでいる。AMF は既に制度化されており、我々としては、AMF の開催時に EAMF も開催されるよう制度化されることを期待している」と語った。

記事参照 : US wants expanded Asean Maritime Forum institutionalized

<http://www.philstar.com/Article.aspx?publicationSubCategoryId=63&articleId=856860>

10月22日「比・豪年次合同海軍演習、開始」(PhilStar.com, October 22, 2012)

フィリピンとオーストラリアの年次合同海軍演習は 22 日、マニラ湾とその周辺海域で始まった。演習は、5 日間にわたって実施される。今回の演習、Lumbas 2012 は 12 回目となり、オーストラリア海軍から誘導ミサイルフリゲート、HMAS *Sydney* が参加する。同艦は、オーストラリア海軍の 4 隻の誘導ミサイルフリゲートの 1 隻で、大々的な改修が施され、防空、監視、対潜戦及び対艦戦闘を任務とする。フィリピン海軍の報道官は、この演習は年次演習であり、西フィリピン海 (南シナ海) の領有権問題とは関係がないとして上で、「この演習の目的は、両国海軍間の相互関係を強化するとともに、海軍戦闘と海洋安全保障維持能力を強化することにある」と語った。フィリピン海軍からは、沿岸戦闘艦、BRP *Mariano Alvarez* と BRP *Beinvenido Salping* が参加する。

記事参照 : Phl-Australia annual maritime exercise starts today

<http://www.philstar.com/Article.aspx?articleId=862075&publicationSubCategoryId=63>

10月24日「豪比首脳会談、開催」(Diplo New, October 24, 2012)

オーストラリアを訪問した、フィリピンのアキノ三世大統領は24日、オーストラリアのギラード首相と会談した。両首脳は、両国間の訪問軍人の地位に関する協定の発効、及び両国警察間の国境を越える犯罪対処と警察協力の強化に関する了解覚書の調印を歓迎した。南シナ海問題に関して、ギラード首相は、オーストラリアは領有権紛争に対してはいずれの側にも与しないが、国連海洋法条約を含む、関係国際法規に準拠して領有権問題に対処するよう関係当事国の求める、と語った。アキノ三世大統領は、全ての当事国が地域的安定と平和を望んでおり、国際法規に則った問題対処が重要である、と強調した。両首脳は、ASEANと中国による法的拘束力を持つ行動規範(COC)の早期締結への期待を表明した。

記事参照：The relationship between Australia and the Philippines holds great promise

http://www.diplonews.com/feeds/free/24_October_2012_10.php

1.4 外交・国際関係

10月31日「米国は尖閣問題で旗幟を鮮明にすべき—D. ブルメンソール」(Foreign Policy, Wednesday, October 31, 2012)

米シンクタンク、AEIのブルメンソール(Daniel Blumenthal)客員研究員は、31日付のForeign Policyに、"Why the Japan-China Senkaku dispute is the most explosive issue in Asia"と題する論説を寄稿し、米中関係には多くの問題があるが、現在進行中の尖閣諸島を巡る日中間の対峙には特別な注意が払われるべきとして、要旨以下のように述べている。

- (1) ここ数年、ワシントンの関心の多くは、中国とベトナムそして中国とフィリピンの領有権紛争に向けられてきた。当然ながら、これらは重要である。マニラは条約上の同盟国であり、そしてベトナムは潜在的な戦略的パートナーである。いずれのケースにおいても、米国は、緊張を緩和するとともに、両国の権利と利益の防衛を支援することに関心がある。
- (2) しかし、日本は別である。日本は、ワシントンにとって最も重要な同盟国である。米国のアジア戦略が成功するためには、日本との強力な同盟が不可欠である。日本の地理的位置は、アジアにおける軍事作戦の要である。その強さと活力は、日本を信頼できるパートナーとしている。利益と価値観の共有は、両国間の絆を強固なものとしている。そして日本は、非常の強力な軍事能力を持った国である。
- (3) 中国による日本の領海や係争海域への間断のない侵入、そして尖閣諸島を巡る日本虐めや嫌がらせは、日本の一部の政治家の間にナショナリスティックな反発を生んだ。しかし、悪循環を作為したのは北京の方で、中国の挑発が日本のナショナリズムを誘発したのである。
- (4) 米国は、尖閣諸島が日米安保条約の対象となることを確認したものの、尖閣諸島の領有権の所在については、日米間で意見が一致していない。この不一致は、1970年代にワシントンが不用意に中国との関係正常化を急いだことに遠因がある。日本は、孤立感を持っており、何故、ワシントンが尖閣諸島の領有権問題で中立の立場をとり続けるのか理解できないでいる。日本がそう思うのも当然かもしれない。何故なら、米国は長年にわたって、アジアにおける領土問題に対しては、それらが「平和的に解決される」限り、領土紛争の成り行きに関しては無関心

- であり、中立の立場を決め込んできたからである。こうした姿勢は、中国が弱体で、自らの主張を押し付けることができなかつた時には、十分通用した。しかし、そうした時代は終わった。
- (5) 米国は、東シナ海や南シナ海における領土紛争の成り行きに関して、本当に「我関せず」でいられるのか。もちろん、そんなことはない。米国は、軍事紛争を望んでもいなければ、重要なシーレーンに沿った海域を中国が支配することも望んでいない。ワシントンにはまた、同盟国の側に立ちたいとも望んでいる。米国は重要海域における様々な領有権を巡る紛争がどのように解決されるべきであると望んでいるのか、判断すべき秋に来ている。そしてその判断は、友好国や同盟国を支持することの利益とともに、計算された戦略地政学的利益の両方に基づいてなされなければならない。
- (6) 尖閣諸島を巡る日中間の紛争は、来るべき年において、米国にとってアジアにおける最も重要な試金石になるかもしれない。日中2国間の緊張関係は、弱まる兆しが見えない。日本は、尖閣諸島に対する領有権を引き下げることはしないであろう。曖昧さも時には必要だが、米国はその立場を明確にする必要がある。アジアの平和を30年にわたって維持してきた既存の秩序体系に対して、中国が挑戦しつつある時、米国は、既存秩序の防衛の先頭に立たなければならない。このことは、米国が同盟国の側に立つことを意味する。そして恐らく非常に困難なことだが、このことはまた、中国と米国の友好国との間の領土紛争に対して、米国が望む結果を明確にすべき秋が来たということも意味するのである。

記事参照：Why the Japan-China Senkaku dispute is the most explosive issue in Asia

http://shadow.foreignpolicy.com/posts/2012/10/31/why_the_japan_china_senkaku_dispute_is_the_most_explosive_issue_in_asia

1.5 海運・造船・港湾

10月11日「スエズ運河コンテナターミナル、大型船の接岸可能に一ポートサイド」(gCaptain, October 11, 2012)

スエズ運河の地中海側入り口にあるポートサイドは、アジア、欧州そしてアフリカ貿易における重要な中継港である。同港のスエズ運河コンテナターミナル (Suez Canal Container Terminal: SCCT) ではこのほど、2度にわたって大型船の試験的接岸が行われ、成功した。最初に接岸したのが1万5,500TEUのMV *Eleonora Maersk* (吃水14.9メートル) で、5日には1万3,500TEUのMV *Edith Maersk* (吃水14.8メートル) が接岸した。長さ397メートルの該船は、3隻のタグボートに支援されて旋回水面で180度旋回した後、接岸した。このサイズの大型コンテナ船の入港はエジプトの港では初めてである。SCCTのロウセン CEO は、「これはエジプト海運史上における重要な出来事である」と語った。SCCTの現有能力は、前方可動範囲22メートルのガントリークレーン18基、長さ2,400メートルの埠頭、吃水15メートル以下で、スエズ運河との海面高低差はゼロである。2011年の取扱量は320万TEUで、荷役効率率は35個/時間である。現在、拡張計画が進行中で、完了すれば540万TEUとなる。

記事参照：Suez Canal Container Terminal Now Ready to Support World's Largest Container Ships

<http://gcaptain.com/suez-canal-container-terminal/>

2. 情報分析

2.1 2012 年第 3 四半期までの海賊行為と船舶に対する武装強盗事案

～IMB 報告書に見る特徴～

国際海事局 (IMB) は 10 月 22 日、2012 年第 3 四半期 (2012 年 1 月 1 日～9 月 30 日) までに世界で起きた海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書を公表した。以下は、IMB 第 3 四半期報告書から見た、2012 年第 3 四半期までの海賊行為と船舶に対する武装強盗事案の特徴を取り纏めたものである。なお、記述の都合上、関係諸表は末尾に掲載した。また、参考資料として、海洋政策研究財団作成の、2010 年以降の「アデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案の状況」を添付した。

IMB は、「海賊」(Piracy) と船舶に対する「武装強盗」(Armed Robbery) の定義については、「海賊」については国連海洋法条約 (UNCLOS) 第 101 条「海賊行為の定義」に、「武装強盗」については、国際海事機関 (IMO) が 2001 年 11 月に IMO 総会で採択した、「海賊行為及び船舶に対する武装強盗犯罪の捜査のための実務コード」(Code of Practice for the Investigation of the Crimes of Piracy and Armed Robbery against Ships) の定義に、それぞれ準拠している。

1. 発生 (未遂を含む) 件数と発生海域から見た特徴

通報された 2012 年第 3 四半期までの発生件数は 233 件で、2011 年同期の 352 件に比して、大幅減となった。因みに、2011 年同期の 352 件は、第 3 四半期までの発生件数としては、IMB が 1991 年から世界の海賊襲撃事案をモニターし始めてから、どの年よりも多い件数であった。最近 6 年間の各第 3 四半期までの状況は、表 1 に示すとおりである。表 2 に示すように、233 件の内、既遂が 149 件 (2011 年同期 173 件) で、その内訳はハイジャック事案が 24 件 (同 35 件) で、乗り込み事案が 125 件 (同 138 件) であった。人質となった乗組員は 448 人で、少なくとも 6 人が殺された。一方、未遂事案は 84 件 (同 179 件) で、その内訳は発砲事案が 26 件 (同 90 件)、乗り込み未遂事案が 58 件 (同 89 件) であった。しかしながら、IMB は、この他にかなりの未通報事案があると見ており、船主や船長などに通報を呼びかけている。

2012 年第 3 四半期までの発生件数を発生海域から見れば、233 件中、約 3 分の 2 の 153 件が以下の 6 カ所の海域で発生している。多い順に見れば、インドネシア 51 件、ソマリア沖 (インド洋を含む) 44 件、ナイジェリア 21 件、紅海 13 件、アデン湾 13 件、そしてトーゴ 11 件となっている。暴力的な襲撃事案やハイジャック事案が西アフリカのギニア湾で増大している。

これによれば、アデン湾、ソマリア沖 (インド洋を含む) 及び紅海でのソマリアの海賊による襲撃件数が 70 件 (2011 年同期 199 件) となり、全発生件数の半分弱を占め、依然としてソマリアの海賊による襲撃事案の多さが際立っている。報告書によれば、ソマリアの海賊による 70 件の襲撃事案の内、ハイジャック事案が 13 件 (アデン湾・紅海 4 件、インド洋を含むソマリア沖 9 件)、乗り込み事案が 1 件 (ソマリア沖) で、217 人の乗組員が人質となり、1 人が負傷し、2 人が死亡した。報告書によれば、9 月末現在、ソマリアの海賊に依然 11 隻が拘留され 167 人の乗組員が身代金目当ての人質となっている。更に、21 人の乗組員が拉致され、ソマリア本土で拘束されている。IMB は、これら人質の内、20 人以上が 30 カ月を超えて拘留されている。70 件の内、未遂事案は 56 件で、その内、

乗り込み未遂事案が 37 件（アデン湾 5 件、紅海 13 件、インド洋を含むソマリア沖 19 件）で、発砲未遂事案が 19 件（アデン湾 4 件、インド洋を含むソマリア沖 15 件）であった。

報告書によれば、ソマリアの海賊による襲撃海域は、西は紅海南部から東は東経 76 度まで、北はオマーン沖とアラビア海の北緯 22.5 度まで、南は南緯 22 度にまで及んでいる。これらの海域では、ソマリアの海賊は、ハイジャックした、商船、外航型漁船及びダウ船を「母船」を使用し、母船から小型ボート（skiff）を発進させ、航行中の船舶を襲撃する。報告書は、「母船」を使うことで、ソマリアの海賊による襲撃海域に限界がなくなった、と指摘している。もっとも、小型ボートの航行が不可能な南西モンスーンによる悪天候で、第 3 四半期（7 月～9 月）には、襲撃事案（未遂）が紅海での 1 件しか発生していない。

報告書によれば、ソマリアの海賊による襲撃事案の減少は、各国海軍部隊による不審な小型ボートや海賊の陸上拠点への攻撃などの活動の強化、航行船舶による海賊対処マニュアル、BMP（The Best Management Practices）の効果的な活用や通航船舶の自衛措置、そして民間武装警備員（Privately Contracted Armed Security Personnel: PCASP）の雇用などの成果である。IMB は、海賊多発海域を航行する船舶に対しては、引き続き警戒を怠らないよう、懲慙している。

他方、西アフリカのギニア湾では、次第に危険な状況になってきている。この海域での発生件数は、2011 年同期の 30 件から、34 件に増加し、しかも発生海域がベナンから西隣のトーゴに拡大している。報告書によれば、襲撃は暴力的かつ計画的で、市場で簡単に売却できる石油精製品が狙われている。海賊は、ハイジャックに成功すれば、該船の通信設備や、時には航法システムを破壊することもある。特にトーゴ沖では、2011 年同期の 6 件から 11 件に倍増し、ハイジャック事案が 3 件、乗り込み事案が 2 件、未遂事案が 6 件であった。ナイジェリア沖では、21 件の襲撃事案中、ハイジャック事案が 4 件、乗り込み事案が 9 件、発砲事案が 7 件、未遂事案が 1 件であった。報告書は、ギニア湾沿岸諸国はいずれも、洋上で海賊に対処できるような海軍力を持っていない、と指摘している。

東南アジア海域についてみれば、表 1 と表 2 に見るように、インドネシアでの発生件数が 51 件で、2011 年同期の 30 件、2011 年通年合計の 46 件よりも多くなっているのが注目される。インドネシアでは、ジャカルタ・タンジュンプリオク、ドゥマイ及びベラワン（スマトラ）、タボネオ（南カリマンタンのマルタブラ沖錨泊地）、ムアラジャワ水道が多発海域となっている。ほとんどの事案は、ナイフや山刀などで武装した停泊中あるいは錨泊中の船舶への夜間の乗り込み強盗事案である。他に東南アジアでは、マラッカ海峡 2 件、マレーシア 8 件、フィリピン 3 件、シンガポール海峡 6 件、南シナ海 1 件となっている。

2. 態様から見た特徴

表 2 はアジア及びその他の多発海域における 2012 年第 3 四半期までの襲撃の態様を海域毎に示したものである。表 3 は、未遂を含む全事案における襲撃された時の船舶の状況について、地域毎に示したものである。

これらによれば、ソマリアの海賊による襲撃事案の特徴が良く分かる。ソマリアの海賊によるアデン湾及びインド洋を含むソマリア沖での事案は、未遂を含めて全て航行中（steaming）の事案であり、「母船」から発進する小型ボートで航行船舶を襲撃するソマリアの海賊の特徴を示している。

一方、東南アジアの場合は、襲撃の態様としては乗り込み事案が多く、襲撃された時の船舶の状況については錨泊中（anchored）が多いのが特徴である。航行中の事案は、インドネシア 5 件、マラッカ海峡 2 件、マレーシア 3 件、フィリピン 1 件、シンガポール海峡 5 件、南シナ海 1 件であった。この内、3 件のハイジャック事案があり、マラッカ海峡では漁船が、マレーシア周辺海域と南シナ海ではタグ&バージがハイジャックされた。

他方、2012年第3四半期までに、港と錨地において3回以上の襲撃件数が通報されたのは11カ所で、計63件であった。これは2011年同期の12カ所、計68件から見れば、場所も件数もわずかに少ない。最も多かったのがインドネシアのドゥマイとトーゴのロメで各11件、次いでバングラデシュのチッタゴン8件、ナイジェリアのラゴス7件、インドネシアのベラワン5件、エジプトのアルデケイラ、ジャカルタ・タンジュンプリオク及び今後のポアント・ノール各4件、インドネシアのバタム、同タボネオ及びコートジボアールのアビジャン各3件であった。ベナンのコトヌーは2011年同期が18件で最も多かったが、ゼロであった。

他方、2012年第3四半期までに襲撃された（未遂事案を含む）船舶のタイプでは、未遂事案も含めて最も多かったのは、ばら積船で46隻、次いでケミカル・タンカー43隻、以下、コンテナ船33隻、原油タンカー26隻、精製品タンカー16隻、タグ13隻、一般貨物船11隻、LPGタンカー9隻、タグボート、港内補給船及びダウ船各5隻などとなっている。ソマリアの海賊が襲撃した船舶には、一般貨物船、ばら積船、各種タンカー、ローロー船、コンテナ船、漁船、外航ヨット、漁船、タグあるいはダウ船など、あらゆるタイプの船舶が含まれており、報告書は、彼らの襲撃が場当たりのであることを示している、と指摘している。

襲撃された船舶の船籍を見れば、2012年第3四半期までの全事案233件中、最も多かったのはシンガポール籍船で39隻、次いでリベリア籍船37隻、以下、パナマ籍船36隻、マーシャル諸島籍船16隻、香港籍船13隻、バハマ籍船12隻などとなっている。なお、日本籍船は、2011年同期は1隻であったが、今期はゼロであった。

他方、襲撃された船舶の運用状況を国別に見れば（Countries where victim ships controlled / managed）、最も多かったのはシンガポールで58隻、次いでドイツ33隻、以下、ギリシャ26隻、英国及び香港各11隻、インド9隻などとなっている。なお、日本は6隻であった。

3. 人的被害の状況と使用武器の特徴

人的被害の状況について見れば、表4に示したように、2008年以降、乗組員が人質となる事案が大幅に増え、人的被害のほとんどを占めている。2012年第3四半期までは人的被害503人中、458人となっている。表5は主な多発海域における人的被害の状況を示したものである。人的被害の発生場所から見れば、人質事案458人中、アデン湾が38人、ソマリアが179人で、ソマリアの海賊による半分近くを占めている。人的被害の面からも、乗組員を人質に身代金要求事案が多い、ソマリアの海賊による襲撃事案の特徴を示している。一方、死亡事案6人の内、4人がナイジェリア、また拉致7人が全てナイジェリアの事案で、ナイジェリアの事案の暴力的特性を示している。

表6は、最近6年間の各第3四半期までの全発生事案で、海賊が使用した武器のタイプを示したものである。これを見れば、銃器とナイフが海賊の主要武器である傾向は、ここ6年間ほとんど変化がない。他方、表7に示すように、海賊の使用武器を地域毎に見れば、銃器使用事案93件中、アデン湾12件、紅海6件、ソマリア33件で、ソマリアの海賊による事案がほとんどを占めている。ここでも、AK-47強襲ライフル、RPG-7ロケット推進擲弾筒などで武装する、ソマリアの海賊の危険性が窺える。他に、銃器使用事案が多いのは、ナイジェリアの21件、トーゴの5件で、ギニア湾の海賊の暴力的特徴を示している。東南アジアの場合は、銃器よりもナイフが主流で、ナイフ使用事案56件中、インドネシアが22件で突出している。一方情報なしも全233件中、79件と多く、ここでもインドネシアの21件が最も多く、次いでソマリアが11件、紅海が7件となっている。

（文責 上野英詞・海洋政策研究財団研究員）

表 1: 最近 6 年間の各第 3 四半期までのアジア及びその他の多発海域での発生 (未遂を含む) 件数の推移

海域	2012	2011	2010	2009	2008	2007
インドネシア	51	30	26	7	23	37
マラッカ海峡	2		1	2	2	4
マレーシア	8	14	13	14	7	7
フィリピン	3	1		1	1	
シンガポール海峡	6	2	3	1	6	2
南シナ海	1	13	30	10		3
ベトナム	4	6	9	8	8	4
バングラデシュ	9	7	18	12	9	13
インド	6	6	4	10	10	7
アデン湾*	13	32	44	100	51	10
紅海**	13	36	24	15		
ソマリア	44	130	56	47	12	26
ナイジェリア	21	6	11	20	24	26
タンザニア	2		1	5	14	9
アラビア海***			2	1		4
インド洋****			1			
オマーン*****		1		4	2	
トーゴ	11	5		2	1	
各年第 3 四半期合計	233	352	289	306	199	198
各年通年合計		439	445	410	293	263

出典：2012 年第 3 四半期報告書 5～6 頁の表 1 から作成。なお、合計件数は報告書の全ての対象海域を含む。

注：*；アデン湾、**；紅海、***；アラビア海、****；インド洋、*****；オマーン、いずれもソマリアの海賊による。

表 2 : アジア及びその他の多発海域における 2012 年第 3 四半期までの襲撃の態様

海域	Actual Attacks		Attempted Attacks	
	Boarded	Hijacked	Fired Upon	Attempted Boarding
インドネシア	46			5
マラッカ海峡	1	1		
マレーシア	7	1		
フィリピン	3			
シンガポール海峡	6			
南シナ海		1		
ベトナム	3			1
バングラデシュ	9			
インド	5			
アデン湾*		4	4	5
紅海**				13
ソマリア	1	9	15	19
ナイジェリア	9	4	7	1
トーゴ	2	3		6
合計	125	24	26	58
総計	233			

出典：2012 年第 3 四半期報告書 8 頁の表 2 から作成。なお、合計件数は報告書の全ての対象海域を含む。

注：*；アデン湾、**；紅海、いずれもソマリアの海賊による。

表 3 : 2012 年第 3 四半期までの海域毎に見た襲撃時の船舶の状況

海 域	Actual			Attempted		
	A	B	S	A	B	S
インドネシア	36	5	5	5		
マレーシア	5		3			
フィリピン	2		1			
シンガポール海峡	1		5			
南シナ海			1			
ベトナム	2	1			1	
バングラデシュ	9					
インド	5			1		
アデン湾*			4			9
ケニア		1				
モザンビーク		2				
ソマリア			10			34
タンザニア		1				1
ナイジェリア	4		9			8
トーゴ	4		1	6		
合計	91	13	45	15	2	67
総計	149			84		

出典：2012 年第 3 四半期報告書 9 ～10 頁の表 4、5 から作成。なお、合計件数は報告書の全ての対象海域を含む。

備考：A = Anchored, B = Berthed, S = Steaming

注：*；アデン湾はソマリアの海賊による。

表 4 : 最近 6 年間の各第 3 四半期までの乗組員の人的被害状況

状況	2012	2011	2010	2009	2008	2007
襲撃	2	6	3	4	5	21
人質	458	619	773	661	581	172
負傷	18	41	27	23	22	21
拉致	7	6	17	12	9	63
死亡	6	8	1	6	9	3
行方不明				8	7	2
脅迫	12	23	13	12	4	4
各第 3 四半期合計	503	703	834	726	637	286
各通年合計		895	1,270	1,166	1,011	438

出典：2012 年第 3 四半期報告書 11 頁の表 8 から作成。

表 5 : 2012 年第 3 四半期までの主な多発海域に見る人的被害の状況

	人質	脅迫	襲撃	負傷	死亡	拉致
インドネシア	18	3	1			
マラッカ海峡	6					
マレーシア	32			3		
フィリピン				1		
シンガポール海峡	19					
南シナ海	7					
ベトナム	1			1		
バングラデシュ	2	1		1		
インド		1				
アデン湾*	38					
ソマリア	179			1	2	
ナイジェリア	61		1	7	4	7
トーゴ	66					
合計	458	12	2	18	6	7
総計	503					

出典：2012 年第 3 四半期報告書 11 ～12 頁の表 9 から作成。なお、合計件数は報告書の全ての対象海域を含む。

注：*；アデン湾はソマリアの海賊による。

表 6 : 最近 6 年間の各第 3 四半期までの全発生事案で海賊が使用した武器のタイプ

武器のタイプ	2012	2011	2010	2009	2008	2007
銃器	93	202	137	176	76	51
ナイフ	56	51	66	56	54	47
その他の武器	5	4	3	3	4	9
情報なし	79	95	83	71	65	91
各第 3 四半期計	233	352	289	306	199	198
各通年合計		439	445	410	293	263

出典：2012 年第 3 四半期報告書 11 頁の表 6 から作成。

表 7 : 2012 年第 3 四半期までの主な多発海域に見る使用武器のタイプ

	銃器	ナイフ	その他の武器	情報なし
インドネシア	3	22	5	21
マラッカ海峡	1			1
マレーシア	3	1		3
フィリピン		1		2
シンガポール海峡	1	1		4
南シナ海				1
ベトナム	1	1		2
バングラデシュ		6		3
インド		2		4
アデン湾*	12			1
紅海**	6			7
ソマリア	33			11
ナイジェリア	21			
トーゴ	5	1		5
合計	93	56	5	79
総計	233			

出典：2012 年第 3 四半期報告書 12-13 頁の表 10 から作成。なお、合計件数は報告書の全ての対象海域を含む。

注：*；アデン湾、**；紅海、いずれもソマリアの海賊による。

2.2 2012年第3四半期までのアジアにおける海賊行為と武装強盗事案 ～ReCAAP 報告書から～

アジア海賊対策地域協力協定 (Regional Cooperation Agreement on Combating Piracy and Armed Robbery against Ships in Asia) に基づいて設立された、ReCAAP 情報共有センター (ISC) は 10 月 22 日、2012 年第 3 四半期 (2012 年 1 月から 9 月末) までにアジアで発生した海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書を公表した。(ReCAAP とは Regional Cooperation Agreement Against Piracy の頭字語である。)

国際海事局 (IMB) の同種の報告書が全世界を対象としているのに対して、ReCAAP の報告書は、アラビア海からユーラシア大陸南縁に沿って北東アジアに至る海域を対象としている。また、IMB が民間船舶や船主からの通報を主たる情報源としているのに対して、ReCAAP の情報源は、加盟国と香港の Focal Point とシンガポールにある Information Sharing Centre (ISC) とを結び、また Focal Point 相互の連結で構成される、Information Sharing Web である。各国の Focal Point は沿岸警備隊、海洋警察、海運・海事担当省庁あるいは海軍に置かれている (日本の場合は海上保安庁)。そして各国の Focal Point は、当該国の法令執行機関や海軍、Port Authority や税関、海運業界など、国内の各機関や組織と連携している。更に、国際海事機関 (IMO)、IMB やその他のデータを利用して

いる。ReCAAP の加盟国は、インド、スリランカ、バングラデシュ、ミャンマー、タイ、シンガポール、カンボジア、ラオス、ベトナム、ブルネイ、フィリピン、中国、韓国及び日本の域内 14 カ国に加えて、域外国からノルウェー (2009 年 8 月)、デンマーク (2010 年 7 月)、オランダ (2010 年 11 月)、及び英国 (2012 年 5 月 2 日) が加盟しており、現在、18 カ国となっている。なお、マレーシアとインドネシアは未加盟だが、ISC との情報交換が行われている。

以下は、ReCAAP 報告書から見た、2012 年第 3 四半期までのアジアにおける海賊行為と船舶に対する武装強盗事案の態様と傾向である。

1. 「海賊」と「船舶に対する武装強盗」についての ReCAAP の定義

「海賊」(piracy) と「船舶に対する武装強盗」(armed robbery against ships) とは、ReCAAP ISC の定義によれば、「海賊」については国連海洋法条約 (UNCLOS) 第 101 条「海賊行為の定義」に従って、「船舶に対する武装強盗」については、国際海事機関 (IMO) が 2001 年 11 月に IMO 総会で採択した、「海賊行為及び船舶に対する武装強盗犯罪の捜査のための実務コード」(Code of practice for the Investigation of the Crimes of Piracy and Armed Robbery against Ships) の定義に従って、それぞれ ReCAAP 協定第 1 条で規定している。

2. 発生 (未遂を含む) 件数と発生海域から見た特徴

報告書によれば、2012 年第 3 四半期までの発生件数は 95 件 (2011 年同期 121 件) で、その内、既遂が 90 件 (同 102 件) で、未遂が 5 件 (同 19 件) である。表 1 は、過去 5 年間の各第 3 四半期までの ReCAAP の対象海域における発生件数を示したものである。これによれば、2010 年同期、2011 年同期に比して発生件数は 20% の減少となった。特に、未遂事案は、過去 5 年間で最少を記録した。

表 1 : 過去 5 年間の各第 3 四半期までの地域別発生件数

	2012.1-9		2011.1-9		2010.1-9		2009.1-9		2008.1-9	
	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂
東アジア										
中国					1					
小計					1					
南アジア										
アラビア海				4						
バングラデシュ	10		7		18	2	11	2	7	2
ベンガル湾				1	1					
インド	6	1	6	2	5		7	1	10	1
スリランカ										
小計	16	1	13	7	24	2	18	3	17	3
東南アジア										
タイ湾					1					
インドネシア	45	2	35	1	24	9	8	2	17	1
マレーシア	7		11	3	13		10	3	6	
ミャンマー							1			
フィリピン	3		4		4		2	1	5	1
シンガポール	1		3		2					
南シナ海	4		10	6	17	7	10	1	4	2
マ・シ海峡	11	1	18	2	2	3	5	2	3	4
タイ					1		1			
ベトナム	3	1	6		10		7		7	1
小計	74	4	87	12	74	19	44	9	42	9
計	90	5	100	19	99	21	62	12	59	12
総計	95		119		120		74		71	

出典 : ReCAAP Quarterly Report (January 1, 2012 – September 30, 2012) , p.11, Table 1 より作成

表 1 によれば、東南アジアでは、発生件数が 78 件で、過去 3 年間で最も低く、なっているが、インドネシアでの発生事案は大幅に増え、過去 5 年間で最も多くなっている。また、バングラデシュの発生件数も増えている。報告書は、バングラデシュとインドネシアにおける停泊中及び錨泊中の船舶に対して、警戒措置の強化を慫慂している。

3. 発生事案の重大度の評価

ReCAAP の報告書の特徴は、既遂事案の重大度 (Significance of Incident) を、暴力的要素 (Violence Factor) と経済的要素 (Economic Factor) の 2 つの観点から評価し、カテゴリー分けをしていることである。

暴力的要素の評価に当たっては、① 使用された武器のタイプ (ナイフなどよりもより高性能な武器が使用された場合が最も暴力性が高い)、② 船舶乗組員の扱い (死亡、拉致の場合が最も暴力性が高い)、③ 襲撃に参加した海賊 / 武装強盗の人数 (この場合、数が多ければ多いほど暴力性が高く、また組織犯罪の可能性もある) を基準としている。

経済的要素の評価に当たっては、被害船舶の財産価値を基準としている。この場合、乗組員の現金が強奪されるよりも、該船が積荷ごとハイジャックされる場合が最も重大度が大きくなる。

以上の判断基準から、ReCAAP は、発生事案を以下の 4 つにカテゴリー分けしている。

Category	Significance of Incident
CAT-1	Very Significant
CAT-2	Moderately Significant
CAT-3	Less Significant
Petty Theft	Minimum Significant

表 2 : 過去 5 年間の各第 3 四半期までのカテゴリー別既遂事案件数

	2012.1-9	2011.1-9	2010.1-9	2009.1-9	2008.1-9
CAT-1	2	6	3	3	4
CAT-2	29	30	41	25	13
CAT-3	22	20	27	9	13
Petty Theft	37	44	28	25	29

出典 : ReCAAP Quarterly Report (January 1, 2012 – September 30, 2012) , p.7, Chart 1 より作成。

表 2 は、過去 5 年間の各第 3 四半期までの既遂事案をカテゴリー分けしたものである。CAT-1 事案はいずれも航行中の事案で、2012 年第 3 四半期の CAT-1 事案は 2 件で、過去 5 年間で最も少ない。2 件はいずれもハイジャック事案で、4 月 17 日にマレーシアのサラワク州沖 35 カイリの南シナ海で発生したタグ&バージのハイジャック事案、7 月 27 日にマレーシアのサバ州沖合で発生したタグ&バージのハイジャック事案であった。報告書によれば、いずれの事案でも、海賊は、乗組員を救命ボートに乗せ、海に下ろした。その後、漂流中のボートは通航中の船舶に救助された。

4. 襲撃時の船舶の状況

報告書によれば、74 件の既遂事案中、20 件は船舶が航行中の事案で、54 件は停泊中か錨泊中であつた。航行中の事案の内、2 件は CAT-1 事案で、13 件が CAT-2 事案、5 件が CAT-3 事案と Petty Theft

事案であった。一方、54件の停泊中・錨泊中事案の内、16件がCAT-2事案、54件がCAT-3事案とPetty Theft事案であった。16件の停泊中・錨泊中事案の内、7件がインドネシア（バリクパパン、ベラワン、ドゥマイ、プラウ・バタム及びサマリダ）で、2件がバングラデシュ（チッタゴン）、2件がインド（カキナダ、ムンバイ）、2件がマレーシア（タンジュン・ピアイ）、2件が辺とおナム（カリラン、ハイフォン）、及1件がフィリピン（マニラ）の港湾と錨泊地で発生した。これらの事案における武装強盗の人数はほとんど4人から9人のグループで、ナイフや山刀あるいは銃器で武装していた。これらの事案では、武装強盗は通常、船内の備品や積荷、エンジン部品、現金、乗組員の持ち物などを盗んでいく。

（文責 上野英詞・海洋政策研究財団研究員）

参考資料

海洋政策研究財団作成資料

アデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案の状況

1. 2012年のハイジャック事案の状況 (10月31日現在)

	Name of Vessels (Position)	Date of incident	Day freed (Day held)	Crew (killed)	Type of Vessels	Flag
1	<i>Savina Al-Salaam</i> (A)	1.2	1.5 (3)	16+4passengers	Livestock ship	India
2	<i>Al-Wasil</i> (A)	1.14		8	Dhow	Yemen
3	<i>Al-Khliil</i> (A) (1)	1.25	2.7 (13)	19	Fishing Dhow	Iran
4	<i>Free Goddess</i> (Ar)	2.7	10.11 (197)	21	Bulk Carrier	Liberia
5	<i>Leila</i> (O)	2.15	4.11 (55)	15	Ro-Ro Ship	Panama
6	<i>Al-Assma</i> (O)	2.28	3.7 (7)		Dhow	
7	<i>Royal Grace</i> (O)	3.2		22 (1)	Chemical Tanker	Panama
8	<i>Ghazal Howlf</i> (A)	3.2		6	Dhow	Yemen
9	<i>Eglantine</i> (I) (2)	3.26	4.2 (7) (イラン海軍、 解放)	23 (2)	Bulk Carrier	Bolivia
10	<i>Naham 3</i> (S)	3.26		15 (1)	Fishing Vessel	Oman
11	<i>Xiang Hua Men</i> (O) (2)	4.6	4.6 (イラン海軍、 解放)	28	Cargo Ship	Panama
12	<i>AlAbass</i> (A) (3)	4.17	5.19 (32)	24	Fishing Vessel	Yemen
13	<i>Smyrni</i> (S)	5.10		26	Oil Tanker	Liberia
14	<i>Shamsi</i> (O)	6.20	7.1 (11)	7	Dhow	Oman

出典：“Piracy And Armed Robbery Against Ships: Report for the Period, 1 January – 30 September 2012,” ICC International Maritime Bureau (IMB), October, 2012, pp.48-50., Worldwide Threat to Shipping Report (Office of Naval Intelligence Civil Maritime Analysis Department, U.S. Navy) ., EU NAVFOR Somalia HP., and Somalia Report. 及びその他の報道資料から作成。

備考1：Position については、(A) は紅海を含むアデン湾、(Ar) はアラビア海、(O) はオマーン沖、(Y) はイエメン沖でのハイジャック事案を示す。インド洋海域については、(S) はソマリア沿岸東方沖、(K) はケニア沖、(M) はマダガスカル沖、(Sy) はセイシエル近海、(T) はタンザニア沖周辺でのハイジャック事案、(I) はこれら海域より遠隔のインド洋でのハイジャック事案を示す。

備考2：Boarded は、海賊が乗り込みに成功しても、乗組員の多くは船内の“citadel” (安全区画) に鍵をかけて閉じ籠もるなどの自衛措置をとることによって、乗り込んだ海賊がハイジャックを諦めて逃亡した事案である。その後、該船は付近を哨戒中の各国海軍戦闘艦に救出されている。一方、海賊が逃亡しなかった場合には、武力による解放に繋がるケースもある。

注：以下の注記は、特異なハイジャック事案や武力解放事案、あるいはハイジャック船のその後の情報（「母船」として使用）などを示したものである。なお、注記の順序は、該船の解放時の日付に従っている。

1. 該船は、海賊の母船として使用されていた。(Somalia Report, February 7, 2012)
2. MV *Eglantine* (63,400DWT) は、イラン海軍特殊部隊によって武力解放された。解放作戦は、3月30日から31日にかけて36時間にわたり、12人の海賊を拘束した。(gCaptain, April 3 and The Tehran Times, April 4, 2012) イラン海軍により解放された際、フィリピン人乗組員2人が死亡した。1人は射殺され、1人はエンジン室に逃げ込み窒息死した。イラン海軍特殊部隊と海賊の銃撃戦になった際、海賊が乗組員を縛り、人間の盾にしたという。(PhilStar.com, April 11, 2012) 更に、イラン海軍特殊部隊は4月6日、在テヘラン中国大使館の要請を受けて、中国の南京遠洋運輸が運航する、MV *Xiang Hua Men* がハイジャックされた数時間後、該船を急襲し、中国人乗組員28人を救出するとともに、9人の海賊を拘束した。(Somalia Report, April 6, 2012)
3. この襲撃で、海賊は別の漁船を「母船」として利用した。海賊は、該船の24人の乗組員の内、4人のみを該船に拘束し、残りをソマリア沿岸に送った。このことは、海賊が該船を「母船」として利用することを示唆している。ソマリアの海賊は現在、12隻のハイジャックした漁船（ダウ船）を「母船」として利用している。(Somalia Report, April 23, 2012)

1. 2011年のハイジャック事案とその後の状況(2012年10月31日現在)

	Name of Vessels (Position)	Date of incident	Day freed (Day held)	Crew (killed)	Type of Vessels	Flag
1	<i>Blida</i> (O)	1.1	10.13.乗組員 2人のみ解放。 11.3(311)、船 と25人解放	27	Bulk Carrier	Algeria
2	<i>CPO China</i> (O)	1.3 Boarded	1.3 (船・ 乗組員解放)	20	Chemical Tanker	United Kingdom
3	<i>Al Musa</i> (O)	1.9	1.24 (船のみ解放)	14	Dhow	India
4	<i>Nipayia</i> (S)	1.12		19	Chemical Tanker	Panama
5	<i>Leopard</i> (Y)	1.13 Boarded	1.13 (船放棄・ 乗組員拉致)	6	General Cargo (該船は定期的に 核物資運搬)	Denmark
6	<i>Bow Asir</i> (S)	1.13		27	Chemical Tanker	Bahamas
7	<i>Smeraldo</i> (O)	1.14 Boarded	1.15 (1) (船、放棄)		Ro-Ro Vessel	Comoros
8	<i>Samho Jewelry</i> (O) (1)	1.15	1.21 (6) (韓国海軍、 武力解放)	21	Chemical Tanker	Malta
9	<i>Eagle</i> (O)	1.17	9.28 (254)	24	Bulk Carrier	Cyprus
10	<i>Hoang Son Sun</i> (O)	1.17	9.17 (232)	24	Bulk Carrier	Mongolia
11	<i>Khaled Muhieddine</i> <i>K</i> (O)	1.20	5.25 (125)	25	Bulk Carrier	Togo
12	<i>Bunga Laurel</i> (O)	1.20 Boarded	1.20	23	Chemical Tanker	Panama
13	<i>Beluga Nomination</i> (Sy)	1.22	4.13 (81)	12	General Cargo	Antigua & Barbuda
14	<i>New York Star</i> (Y)	1.28 Boarded	1.29 (1) (オランダ海 軍救出)	23 + 4 (unarmed guards)	Tanker	Liberia
15	<i>Savina Caylyn</i> (I)	2.8	12.21 (316)	22	Tanker	Italy

	Name of Vessels (Position)	Date of incident	Day freed (Day held)	Crew (killed)	Type of Vessels	Flag
16	<i>Irene SL</i> (O) (2)	2.9	4.7 (49)	25	VLCC	Greece
17	<i>Sinin</i> (O)	2.12	8.13 (182)	23	Bulk Carrier	Malta
18	<i>Al Fardous</i> (A)	2.13		8	Fishing Vessel	Yemen
19	<i>Quest</i> (O) (3)	2.18	2.22 (4)	4 (4)	Sailing Yacht	USA
20	<i>ING</i> (Ar)	2.24	9.7 (195)	7	Sailing Yacht	Denmark
21	<i>Dover</i> (O)	2.28	9.30 (215)	23	Bulk Carrier	Panama
22	<i>Capricorn</i> (Ar)	3.2 Boarded	3.2		Sailing Yacht	Belgium
23	<i>Guanabara</i> (Ar) (4)	3.5 Boarded	3.6 (1)	24	Tanker	Panama
24	<i>Sinar Kudus</i> (Ar)	3.16	5.1 (46)	20	Bulk Carrier	Indonesia
25	<i>Liquid Crystal</i> (O)	3.21 Boarded	3.21		Chemical Tanker	Panama
26	<i>Falcon Trader II</i> (O)	3.24 Boarded	3.24		Bulk Carrier	Philippines
27	<i>Zirku</i> (A)	3.28	6.11 (75)	29	Tanker	UAE
28	<i>Arrilah-I</i> (Ar) (5)	4.1 Boarded	4.2 (1)		Bulk Carrier	UAE
29	<i>Susan K</i> (O)	4.8	6.16 (89)	10	General Cargo	Antigua & Barbuda
30	<i>Abdi Khan</i> (Sy)	4.16		6 (3人解放)	Fishing Vessel	Yemen
31	<i>Gloria</i> (Sy)	4.19	4.20 (1)	4	Fishing Vessel	Seychelles
32	<i>Hanjin Tianjin</i> (Ar)	4.20 Boarded	4.21 (1)	20	Container	Panama
33	<i>Rosalia D'Amato</i> (Ar) (6)	4.21	11.26 (219)	21	Bulk Carrier	Italy
34	<i>Gemini</i> (I)	4.30	11.30 (215)	25 (韓国人船 長・船員 4 人未解放)	Chemical Tanker	Singapore

	Name of Vessels (Position)	Date of incident	Day freed (Day held)	Crew (killed)	Type of Vessels	Flag
35	<i>Full City</i> (I)	5.5 Boarded	5.5		Bulk Carrier	Panama
36	<i>Altas</i> (A)	5.31 Boarded	5.31		Bulk Carrier	Panama
37	<i>Brillante Virtuoso</i> (A)	7.6 Boarded	7.6	26	Tanker	Liberia
38	<i>Jubba XX</i> (A)	7.16	7.27 (11)	16	Tanker	UAE
39	<i>Caravos Horizon</i> (A)	8.11 Boarded	8.11		Bulk Carrier	Malta
40	<i>Fairchem Bogey</i> (O)	8.20	2012.1.12 (145)	21	Chemical Tanker	Marshall Islands
41	<i>Tiba-2 Halima</i> (Ar) (7)	9.1	9.6 (5)	12 (2)	Dhow	India
42	<i>Tribal Kat</i>	9.8	9.10 (2) (乗組員拉致)	2 (1)	Sailing Yacht	France
43	<i>Montechristo</i> (I) (8)	10.10	10.11 (1) (米英海軍、 武力解放)	23	Bulk Carrier	
44	<i>Nim esha Duwa</i> (S)	10.29			Fishing Vessel	Sri Lanka
45	<i>Aride</i> (Sy)	10.30		2	Fishing Vessel	Seychelles
46	<i>Liquid Velvet</i> (A)	10.31	2012.6.5 (217)	21	Chemical Tanker	Marshall Islands
47	<i>Chin I Wen</i> (Sy)	11.3	11.5 (2)	28	Fishing Vessel	Taiwan
48	<i>Enrico Ievoli</i> (O) (9)	12.27	2012.4.23 (117)	18	Product Tanker	Italy

出典 : "Piracy And Armed Robbery Against Ships: Report for the Period, 1 January – 31 December 2011," ICC International Maritime Bureau (IMB) , January 18, 2012, pp.60-71., Worldwide Threat to Shipping Report (Office of Naval Intelligence Civil Maritime Analysis Department, U.S. Navy) ., EU NAVFOR Somalia HP, and Somalia Report. 及びその他の報道資料から作成。

備考 : Position、Boarded については、前記表 1 の備考 1、2 に同じ。

注 : 以下の注記は、特異なハイジャック事案や武力解理事案、あるいはハイジャック船のその後の情報（「母船」として使用）などを示したものである。なお、注記の順序は、該船の解放時の日付に従っている。

1. 韓国合同参謀本部によれば、海賊対処部隊の海軍特殊戦旅団要員は 2011 年 1 月 21 日未明、MT *Samho Jewelry* に突入し、該船を解放した。乗組員 21 人は全員救出されたが、海賊 8 人が射殺

され、5人が拘束された。また、該船の船長が負傷した。(BBC News, January 21, 2011) その後、この武力解放は、ソマリアの海賊の人質となった韓国人船員に影響を及ぼす。ソマリアの海賊は11月30日、4月30日にケニア東方沖でハイジャックしたシンガポール籍船のケミカルタンカー、MT *Gemini* (29,871DWT) を解放した。該船の乗組員は25人だが、21人が解放されたのみで、韓国人船長と韓国人船員3人は、韓国海軍が1月21日に精製品タンカー、MT *Samho Jewelry* を武力解放した際に5人を拘束し、韓国で拘留している代償として、未解放となっている。(Maritime Bulletin, December 2, 2011)

2. 該船の身代金は1,350万米ドルといわれ、これまで最高額である。(Somalia Report, April 18, 2011)
3. 4人米国人が乗ったヨット、SV *Quest*が2011年2月18日、オマーン沖240カイリの海域でソマリアの海賊にハイジャックされた。その後、米海軍は、戦闘艦4隻と無人偵察機でヨットを監視してきた。翌、22日朝、ヨットから約600ヤード離れていた同艦に向けてロケット推進擲弾が発射された。米第5艦隊によれば、擲弾は命中しなかったが、直後に、ヨットから小銃の発射音が聞こえた。米海軍特殊部隊がヨットに近づくと、海賊は船首に集まり、降伏した。その際、特殊部隊は、2人の海賊を射殺した。ヨットからも2人の海賊の死体が発見された。また、ヨットに乗っていた4人の米国人は致命傷を負っており、死亡した。(CBS News, February 23, 2011)
4. 多国籍海賊対処部隊、CTF-151に属する米海軍誘導ミサイル駆逐艦、USS *Bulkeley* (DDG 84) は2011年3月5日未明、商船三井が運航する日本関係船のタンカー、MV *Guanabara* (57,400DWT) を海賊の襲撃から救助するとともに、降伏した海賊容疑者4人を拘束した。米海軍によれば、襲撃された時、乗組員は船内の安全区画(“citadel”)に避難していた。(Combined Maritime Forces, Press Release, March 6, 2011)
5. 該船はアラブ首長国連邦(UAE)のアブダビ国営石油所有のばら積船で、UAE特殊部隊は2011年4月2日、該船を急襲し、解放した。(The National, April 3, 2011) UAEは2012年5月、この時拘束した10人のソマリア人海賊容疑者に終身刑を言い渡した。(The maritime Executive, May 22, 2012)
6. NATO艦隊所属の米海軍誘導ミサイル駆逐艦、USS *Stephen W. Groves* は2011年4月26日、ソマリア沿岸約100カイリの海域を哨戒中、2010年3月31日にハイジャックされ海賊の母船として使用されている台湾の漁船、FV *Jih Chun Tsai 68*に遭遇した。FV *Jih Chun Tsai 68*は2隻の無人の小型ボートを曳航しており、FV *Jih Chun Tsai 68*自体はMV *Rosalia D'Amato* に曳航されていた。また、近くに3月28日にハイジャックされた、アラブ首長国連邦籍船のタンカー、MV *Zirku* もいた。米艦は、MV *Rosalia D'Amato* から海賊母船を切り離すよう命令したが、海賊が従わなかったため、警告射撃を行った。これも無視されたため、2隻の小型ボートを破壊した。その後、米艦がMV *Rosalia D'Amato* に接近したところ、海賊が発砲してきたので、自衛のため反撃した上で、該船の人質の安全のために該船から離れた。ハイジャックされた2隻の商船は海賊の根拠地に向かっていった。(Allied Maritime Command Headquarters Northwood, News Release, April 26, 2011)
7. オマーン国防省の発表によれば、同国海軍戦闘艦は2011年9月6日早朝、該船を武力解放した。ソマリアの海賊は、該船を母船に改造していた。武力解放の過程で、インド人乗組員12人の内、2人が死亡し、6人が負傷した。ソマリアの海賊も1人、死亡した。海賊は、発見された時、乗組員を「人間の盾」として利用し、逃亡を図ったが、船首部を銃撃され、降伏した。(Gulf News.com,

September 7, 2011)

8. イタリア外務省が 11 日に明らかにしたところによれば、NATO 艦隊所属の米英海軍の 2 隻の戦闘艦は 2011 年 10 月 11 日、ソマリアの海賊にハイジャックされた該船を強襲し、乗組員を解放するとともに、ソマリア人海賊容疑者 11 人を拘束した。該船の乗組員は、海賊が該船に乗り込んできた時、船内の安全区画 (citadel) に閉じ籠もった。海賊は全ての通信手段を遮断したため、乗組員は舷窓から安全区画に閉じ籠もっているとのメッセージを入れた瓶を投下した。回収されたメッセージは、乗組員を危険に曝すことなく、救出作戦が遂行できることを伝えるものであった。救出作戦は、NATO 艦隊司令官のイタリア海軍提督の統制下で、米英海軍の 2 隻の戦闘艦、RFA *Fort Victoria*、USS *De Wert* で実施された。(AP, October 11, 2011) この 8 日後の 10 月 19 日、NATO 艦隊所属の英海軍フリゲート、HMS *Somerset* と艦隊補給艦、RFA *Fort Victoria* は、ソマリア沿岸に向かって航行中のダウ船を発見し、停船させた。臨検によって、船内から多くの武器と海賊装備類が発見された。臨検終了後、パキスタン人乗組員はダウ船と共に解放され、4 人のソマリアの海賊は、MV *Montecristo* を強襲した海賊容疑者 11 人と共に、イタリア当局に引き渡された。(Allied Maritime Command, News Release, October 19, 2011)
9. 米海軍情報部 (ONI) が 2012 年 1 月 19 日に発した警報によれば、該船は、ソマリア沿岸を離れ、恐らく母船として利用するためにアデン湾に向かっている。ONI は、該船には、武器と襲撃用の小型高速ボートが積載されていると見ている。(gCaptain, January 19, 2012)

EU 艦隊が 2012 年 1 月 20 日付で公表したところによれば、EU 艦隊所属のドイツ海軍フリゲート、FGS *Luebeck* は 1 月 19 日、海賊の母船となっていたインド籍ダウ船が 18 人の乗組員を人質としている MT *Enrico Ievoli* と会同するのを発見した。会同後、ダウ船の海賊容疑者は、負傷した彼らがタンカーに移るのを阻止するために軍事行動をとれば、MV *Enrico Ievoli* の 18 人を含む、全ての人質に危害を加えると脅迫してきた。FGS *Luebeck* は、上空から監視し、彼らが乗り移った後、臨検チームがダウ船に乗り込み、15 人のインド人乗組員を保護した。全員無事であった。MV *Enrico Ievoli* は、負傷した海賊容疑者を乗せて、ソマリア沿岸に向かった。(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, January 20, 2012)

3. 2010年のハイジャック事案中、2011年1月以降の解放状況（2012年10月31日現在）

	Name of Vessels (Position)	Date of incident	Day freed (Day held)	Crew (killed)	Type of Vessels	Flag
1	<i>Iceberg 1</i> (A) (1)	3.29		24 (1)	Ro Ro Vessel	Panama
2	<i>Jin Chun Tsai No. 68</i> (S) (日春財 68 号) (8)	3.31		14	Fishing Vessel	Taiwan
3	<i>RAK Afrikana</i> (Sy)	4.11	2011.3.10 (325)	26	Ro Ro Vessel	St Vincent & Grenadines
4	3 Thai Fishing Vessels <i>Prantalay</i> <i>No.11,12,14</i> (2) , (9)	4.18	2011.2.6 (294) (11,12 はイ ンド海軍が 解放、14 は ソマリア沿 岸に遺棄)	77	Fishing Vessel	Thailand
5	<i>Tai Yuan 227</i> (Sy) (泰源 227 号) (3)	5.6	2011.2.2 (272)	28	Fishing Vessel	Taiwan
6	<i>Al Dhafir</i> (A)	5.7		7	Fishing Vessel	Yemen
7	<i>Motivator</i> (A)	7.4	2011.1.16 (363)	18	Chemical Tanker	Marshall Islands
8	<i>Suez</i> (A)	8.2	2011.6.14 (285)	23	General Cargo	Panama
9	<i>Olib G</i> (A)	9.8	2012.1.17 (496)	18	Chemical Tanker	Malta
10	<i>Asphalt Venture</i> (T) (7)	9.28	2011.4.15 (199) (8 人解放/イ ンド人 船員 未解放)	15	Asphalt Carrier	Panama
11	<i>Golden Wave</i> (K)	10.9	2011.4.9 (182)	43	Fishing Vessel	Kenya
12	<i>Izumi</i> (K) (5)	10.10	2011.2.28 (141)	20	General Cargo	Panama

	Name of Vessels	Date of incident	Day freed (Day held)	Crew (killed)	Type of Vessels	Flag
13	<i>York</i> (K)	10.23	2011.3.9 (137)	17	LPG Tanker	Singapore
14	<i>Polar</i> (I)	10.30	2011.8.26 (300)	24 (1)	Tanker	Panama
15	<i>Aly Zulfecar</i> (T) (4)	11.3	2011.2.24 (113)	29	Passenger Boat	Comoro
16	<i>Yuan Xiang</i> (Ar)	11.12	2011.6.7 (207)	29	General Cargo	Panama
17	<i>Albedo</i> (I) (10)	11.26		23	General Cargo	Malaysia
18	<i>Jahan Moni</i> (I)	12.5	2011.3.14 (99)	26	Bulk Carrier	Bangladesh
19	<i>MSC Panama</i> (T)	12.10	2011.9.6 (270)	23	Container Ship	Liberia
20	<i>Renuar</i> (I)	12.11	2011.4.23 (133)	24	Bulk Carrier	Panama
21	<i>Orna</i> (I) (10)	12.20	2012.10.19 (668)	19	Bulk Carrier	Panama
22	<i>Thor Nexus</i> (A)	12.25	2011.4.11 (107)	27	Bulk Carrier	Thailand
23	<i>Shiuh Fu 1</i> (M) (旭富壹號) (11)	12.25	2012.7.17 (570) (2011.12.20 現在、船体は ソマリア沿 岸に遺棄)	26	Fishing Vessel	Taiwan
24	<i>Ems River</i> (A)	12.27	2011.3.2 (65)	8	General Cargo	Antigua & Barbuda
25	<i>Vega 5</i> (M) (6)	12.30	2011.3.14 (74)	14	Fishing Vessel	Mozambique

出典 : "Piracy And Armed Robbery Against Ships: Report for the Period, 1 January – 31 December 2010," ICC International Maritime Bureau (IMB) , January 2010, pp.57-65., Somali Marine & Coastal Monitor (EcoTerra International) ., Worldwide Threat to Shipping Report (Office of Naval Intelligence Civil Maritime Analysis Department, U.S. Navy) ., EU NAVFOR Somalia HP., List of Ships Hijacked (U.S. Department of Transportation Maritime Administration) ., and Somalia Report. 及びその他の報道資料から作成。

備考 : Position については、前記表 1 の備考 1 に同じ。

注：以下の注記は、特異なハイジャック事案や武力解放事案、あるいはハイジャック船のその後の情報（「母船」として使用）などを示したものである。なお、注記の順序は、該船の解放時の日付に従っている。

1. *Iceberg 1* の 24 人の乗組員の 1 人は 2010 年 10 月に海中に飛び込んで溺死した。(Somalia Report, June 3, 2011) 2011 年 10 月に解放情報があったが、実現しなかった。2012 年 6 月現在、船体と乗組員の状況は不明で、該船の勾留期間はこれまでのハイジャック船で最長となっている。(gCaptain, April 2, and Somalia Report, June 26, 2012)
2. インド海軍の発表によれば、インド海軍と沿岸警備隊は 2011 年 2 月 6 日早朝、ラクシャドウィープ諸島沖のインド領海内で、ソマリアの海賊の「母船」として利用されていたタイのトロール漁船に乗った海賊と銃撃戦の末、28 人の海賊容疑者を拘束し、漁民 24 人を救出した。この「母船」は、2010 年 4 月 18 日にインド洋でハイジャックされた 3 隻のタイの漁船、FV *Prantalay 11*、FV *Prantalay 12*、FV *Prantalay 14* の内、ナンバーから FV *Prantalay 11* と判明した。(Deccan Herald, February 6, and Indian Navy Press Release, February 6, 2011) 2011 年 12 月 20 日付の EU 艦隊のプレスリリースによれば、FV *Prantalay 12* は、他の 2 隻と共にソマリア海岸に遺棄されており、潜在的な海洋汚染源となっている。(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, December 20, 2011)
3. 該船は、「母船」として使用されていた。(RTT News, February 2, 2011)
4. マダカスカル当局によれば、2010 年 11 月 3 日にハイジャックされたコモロ籍船の小型客船、MV *Aly Zulfecar* の船長と 2 人の海賊容疑者を含む 6 人が 2011 年 2 月 24 日、小型ボートで同国北部のアンツィラナナ港に着き、救助を求めた。(AFP, February 24, 2011) マダカスカル海軍は 2 月 27 日、MV *Aly Zulfecar* を確保し、アンツィラナナ港に曳航した。海軍によれば、該船は燃料切れで漂流していた。(AFP, February 28, 2011)
5. 日本の日之出郵船が運航する日本関係船、MV *Izumi* は、「母船」として利用されていたようである。2010 年 11 月 8 日付けの EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release によれば、スペイン海軍コルベット、SPS *Infanta Cristina* は 11 月 6 日夜、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊がチャーターしたモガディシュへの食料運搬船、MV *Petra 1* を護衛中、MV *Izumi* に乗った海賊から銃撃された。同艦は、人質となっている該船乗組員（フィリピン人 20 人）を危険にさらさないために、反撃を最小限の自衛措置に止めた。MV *Izumi* は逃走した。また、EU 艦隊によれば、ソマリア近海で 11 月 5 日、海賊襲撃グループが MV *Izumi* から小型ボートに乗り換え、航行中の船舶を襲撃したのが確認されたという。
6. インド海軍によれば、インド海軍高速艇、INS *Kalpeni* は 2011 年 3 月 12 日夜、インド西岸約 600 カイリのアラビア海で、「母船」として利用されていた、漁船、FV *Vega 5* を拘束した。インド海軍によれば、哨戒機が追跡していた、FV *Vega 5* を臨検に向かった INS *Kalpeni* が、該船より発進した 2 隻の小型ボートから銃撃された。INS *Kalpeni* が限定的な反撃を行ったところ、該船が炎上した。乗っていた 74 人は海に飛び込んだが、ミサイル・コルベット、INS *Khukri* に救出された。この内、13 人が漁船員で、61 人の海賊容疑者が拘束された。漁船を臨検したところ、海賊容疑者は、約 80 から 90 丁の小型火器と数丁の重火器を保持していた。(NDTV.com, March 14, 2011)
7. 該船の乗組員は 15 人だが、該船と共に解放されたのは 8 人である。ソマリアの海賊は 2011 年 4 月 16 日、インドに拘束されている仲間の海賊が解放されるまで、インド人船員を拘束しておく、

と語った。この海賊はロイター通信に対して、「インド人は解放しないというのが我々の間での共通の了解である。インドは、我々に戦争を仕掛けてきているばかりでなく、我々の仲間の生命を危険に曝している」と語った。(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press release, April 16, and Reuters, April 16, 2011)

2011年10月28日付の *Somalia Report* によれば、ソマリアの海賊は、インドで収監されているソマリア人海賊容疑者の釈放をインド政府に強要するため、特にインド人船員を標的にしている。海賊は、ハイジャック船や陸上で拘束している300人近くの船員の中から、インド人船員を捜し出している。例えば、*MT Asphalt Venture* は、2011年4月15日に350万米ドルの身代金を支払って解放されたが、15人の乗組員の内、7人のインド人船員は解放されず、2011年10月現在でも拘束されたままである。ソマリア中部のハーラーデーレで彼らを拘束している海賊は、*Somalia Report* に、以下のように語っている。「我々は、ハイジャック船からインド人船員を捜し出しており、インド政府が収監している我々の仲間を釈放しない限り、インド人船員を解放しない。我々は今後も、身代金を受け取れば、ハイジャック船を解放するが、インド人船員については、身代金を受け取っても解放しない。」

2011年10月現在ソマリアの海賊が拘束中のインド人船員

MV Iceberg 1 : 乗組員24人中インド人船員6人 (2010年3月18日、ハイジャック)

MV Albedo : 23人中2人 (2010年11月26日、ハイジャック)

MV Savina Caylyn : 22人中17人 (2011年2月8日、ハイジャック)

MV Fairchem Bogey : 21人中21人 (8月20日、ハイジャック)

MT Asphalt Venture : ハーラーデーレで7人拘束中

(*Somalia Report*, October 28, 2011)

8. NATO 艦隊所属の米海軍誘導ミサイル駆逐艦、*USS Stephen W. Groves* は2011年4月26日、ソマリア沿岸約100カイリの海域を哨戒中、海賊の母船として使用されている該船に遭遇した。該船は2隻の無人の小型ボートを曳航しており、自らはこの3日前の4月21日にハイジャックされたイタリア籍船、*MV Rosalia D'Amato* に曳航されていた。米艦は、*MV Rosalia D'Amato* から海賊母船を切り離すよう命令したが、海賊が従わなかったため、警告射撃を行った。これも無視されたため、2隻の小型ボートを破壊した。その後、米艦が *MV Rosalia D'Amato* に接近したところ、海賊が発砲してきたため、自衛のため反撃した上で、該船の人質の安全のために該船から離れた。(Allied Maritime Command Headquarters Northwood, News Release, April 26, 2011)
9. 2011年12月20日付のEU艦隊のプレスリリースによれば、該船は、タイ漁船、*FV Prantalay 12*を含む、他の2隻と共にソマリア海岸に遺棄されており、潜在的な海洋汚染源となっている。(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, December 20, 2011)
10. 2012年5月、EU艦隊は、該船のハイジャッカーの中部ソマリア沿岸にある拠点を攻撃した。ハイジャッカーは、*MV Orna*を3度、母船として利用している。(Somalia Report Weekly Report, May 29, 2012) 該船は2012年10月19日に解放されたが、乗組員19人の内、13人が解放されたが、6人は依然拘束中と見られる。2012年9月初めに海賊が1人を殺害したと報道されたが、運航社の *Sirago Ship Management* は、解放された乗組員の話として、19人全員生存していると述べた。(Lloyd's List, October 22, 2012)
11. 中国外務省が2012年7月17日に明らかにしたところによれば、中国海軍ソマリア沖派遣部隊は

7月17日、ソマリアの海賊に抑留されていた台湾漁船の乗組員を救出した。乗組員は26人で、中国人13人、ベトナム人12人そして台湾人1人である。台湾外交部は、中国側の謝意を表明したが、身代金が支払われたかどうかについては言及を避けた。7月19日付の **Somalia Report** によれば、海賊側は300万米ドルの身代金を受け取ったという。なお、2011年12月20日付けのEU艦隊のプレスリリースによれば、**FV *Shiuh Fu No 1*** (旭富壱號) は、他の2隻のハイジャック船とともにソマリア海岸に遺棄されており、潜在的な海洋汚染源となっている。(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, December 20, 2011)

海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ三丁目4番10号 虎ノ門35森ビル
TEL.03-5404-6828 FAX.03-5404-6800

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)